

東北画  
は  
可能  
か？

ハマカル  
アート  
プロジェクト  
2025  
成果展  
於  
山形市

2026年2月4日[水]→14日[土] 10:00—19:00  
THE LOCAL TUAD ART GALLERY

山形県山形市本町1-5-19 やまがたクリエイティブセンターQ1 1階[1-G]

二〇二六年二月五日[木]→八日[日] 10時—17時  
みんなの交流館 ならはCANVAS 多目的室

福島県双葉郡楢葉町大字北田字中溝 六〇番地

東北画  
は  
可能  
か？

ハマカル  
アート  
プロジェクト  
二〇二五  
成果展  
於  
楢葉町



東北画は可能か？について

二〇〇九年に東北芸術工科大学で、東北における美術のあり方を考える活動として、日本画コース教員の三瀬夏之介と洋画コース教員の鴻崎正武(当時)を中心にスタートしたプロジェクトです。

日本のアートシーンが首都圏に集中するなか、そこから遠く離れた東北において、その地域名を冠した絵画や芸術の現場が成立する可能性を探る試みとして立ち上がり、二〇二二年より洋画コース教員の狩野宏明が加わりました。

二〇二一年の東日本大震災に始まり、新型「コロナウイルス」の蔓延といった時代の激動の中で、「いま」「ここ」、そして「わたし」が変わる「瞬間」各々の「東北画」が生まれると設定し、地域や歴史の勉強会、フィールドワーク、地域型アートプロジェクトへの参加、共同制作などを行ってきました。

そこから生まれたイメージに対してのディスカッションなどを通して、様々な「東北画」が生まれてきています。

ハマカルアートプロジェクトについて

福島県の浜通りを中心とした十二市町村の一部では、東京電力福島第一原子力発電所の事故により、現在も一部避難指示が継続されています。

十二市町村全体として復興は進展しつつある一方、依然として人口・経済などあらゆる面に、東日本大震災や原子力災害の痕跡が色濃く残っており、まだまだ挑戦していかなければならない課題があります。

ハマカルアートプロジェクトでは、アート活動によって、もともと地域に伝承されてきた文化などを再発見することで、新しい価値を出していく、これまでに地域に関わりのなかった人々の関心を惹き、新たな人の交流を促していくことを目指します。

経緯(左側)「地域経済振興推進費補助金 喚起芸術文化推進費」ハマカルアートプロジェクト 実行事業

東北画は可能か？ 経歴



2月8日[日] 楢葉町成果展イベント

- 13:00-14:00 トーク「東北画とは何か？」  
鴻崎正武(女子美術大学)×三瀬夏之介(東北芸術工科大学)
  - 14:15-15:00 ライフパフォーマンス「めぐるめく」  
菅野すみれ、佐藤凜静、百姓一揆、and more...
- ※終日、公開制作あり

THE  
LOCAL  
TUAD ART GALLERY

HAMACUL  
ART 2025  
PROJECT

